

第3回 A：地図や地理情報システムで捉える現代世界

(1) 地図や地理情報システムと現代世界

何がグローバル化しているの？ ～グローバル化～

監修・講師
高木 優

学習のねらい

情報通信技術が急速に発達し、いつでもどこでも世界中の情報にアクセスできる時代になりました。その結果、新しい人と人の結びつきが生まれています。しかし、個人レベルでは、ネット・リテラシーを身に付けること、国・社会レベルでは、デジタルデバイド（情報格差）を解消することの重要性がさらに高まっています。

キーワード

携帯電話、スマートフォン、ライブコマース、
海底ケーブル、情報通信技術、
ネット・リテラシー、デジタルデバイド

小さくなる地球

ポケットベルやポケベルと呼ばれた無線呼び出しシステムや PHS が利用されていた時期を経て、携帯電話、その中でも携帯情報端末の機能が取り込まれたスマートフォンが普及したことにより、いつでもどこでも世界中の情報にアクセスできる時代になりました。PHS は Personal Handy-phone System の略で、固定電話を延長する形で通信を行っており、固定電話の子機が持ち運べるようになったものです。携帯電話は自動車電話（車載電話機）が小型化し、持ち運びができるようになったものです。

携帯電話やスマートフォンなどの移動体通信システムは急速に私たちの生活に定着し、インターネットやカメラなどにとどまらず、音楽プレーヤーや電子決済サービスなどでの利用もされるようになりました。また、SNS と呼ばれる Social networking serviceなどで、コミュニケーション手段が豊かになり、小さくなった地球がだれでも実感できるようになっています。

人と人の結びつき

スマートフォンの普及により、コロナ禍において、人の移動ができなくても、国境を越えてモノが売り買いされる「ライブコマース」が拡大しています。「ライブコマース」とはスマートフォンの専用アプリを利用し、商品の紹介を生配信しながら、配信者と視聴者で双方向に連絡を取りながら商品売り買いする手法です。こうした「ライブコマース」をはじめとした国際通信を支えているのが、高速かつ大容量の通信を可能にした光ファイバーケーブル、そして、それを用いた海底ケーブルの通信網です。20世紀初頭には、日米間の太平洋横断国際海底ケーブルが開通し、20世紀末から、光ファイバーケーブルが用いられるようになっていきます。

また、アフリカのケニアでは、スマートフォンのGPS機能などで、受取人がどこにいても荷物を受け取ることができるシステムが構築されています。ほとんどの建物に正式な番地が割り振られていなくても、配達物がきちんと届くようになっていきます。位置情報が分かっても移動手段がなければ、荷物を届けることができません。日本の大手バイクメーカーは、お金がない人でもバイクを使った仕事を始められるように、得られた収入からバイクの購入代金などを支払うという仕組みを作ろうとしています。また、投資会社を運営する日本人がシステムの実用化の支援のために投資をしています。このように、情報通信技術の進歩が、新しい人と人のつながりを生み出しています。

進むグローバル化

「世界の国・地域別の貿易額の推移」を見ると、1970年に約1兆ドルであったものが、40年余りで30兆ドルを超えるまでに増えています。特に、ヨーロッパなどの先進国だけでなく、発展途上国の伸びも大きくなっています。

携帯電話は固定電話と比べ、ネットワーク整備にかかるインフラ整備が簡単でコストがかからないこともあり、アフリカの携帯電話加入者数は急速に伸びており、普及率は2003年から2014年の10年間ほどで約10倍になっています。しかし、情報通信技術の急速な普及はメリットだけでなくデメリットにも注意することが必要です。個人レベルでは、ネット・リテラシーを身につけることが必要です。また、国・社会レベルでは、デジタルデバイド（情報格差）の解消が求められています。